

今日のトピック 米国の金融政策 (2016年1月)

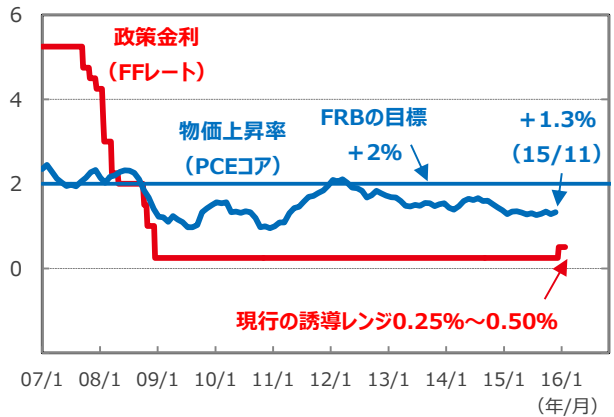
FOMC声明はハト派的な内容

ポイント1 政策金利を据え置き

労働需給は一段と改善との見方

- 1月26日～27日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) は、市場の予想通り政策金利 (FFレート) の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文は、昨年後半の経済成長は鈍化したものの、労働市場の改善が一段と進み、経済のスラック (需給の緩み) は幾分か縮小したと述べました。
- 一方、インフレについては、原油価格の値下がりなどもあり、目標値である+2%を下回った状態が続いているとされました。

政策金利と物価上昇率の推移



(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年1月27日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2015年11月。PCE (個人消費支出) コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融市場等の動向を精査

緩やかな利上げ継続へ

- FOMCの経済見通しに対するリスクについて、前回の声明文では「上振れと下振れが均衡」しているとされましたが、今回これが削除されました。
- 代わって、「世界経済および金融市場の動向を精査」との文言が挿入されました。中国経済の先行き不透明感や、それによる世界的な金融市場の混乱を反映したものと見られます。
- これらを踏まえたうえで、「緩やかなペースで利上げが実施」される見通しであることを改めて表明しました。

前回会合におけるFOMC参加者の見通し

(12月、単位：%)

	2015年	2016年	2017年
GDP	2.1	2.4	2.2
失業率	5.0	4.7	4.7
物価上昇率	1.3	1.6	1.9
FFレート	0.4	1.4	2.4

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE (個人消費支出) コア物価指数の上昇率。
(出所) FRB (連邦準備制度理事会) の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緩慢な利上げペース、緩やかな景気拡大の見通し

- 緩やかな利上げの方針が維持されたことから、3月利上げの可能性も残されました。ただし、金融市場混乱への警戒感などを踏まえると、3月実施の可能性は低いと考えられます。
- 利上げペースが緩慢なものになることから、経済への影響は当面のところ限定的と考えられます。外需の不振を個人消費をはじめとする内需の拡大で補い、米国経済は緩やかな成長を維持する見込みです。

ここもチェック! 2016年 1月12日 米国の雇用統計 (2015年12月)
2016年 1月 8日 FOMC「議事要旨」(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。